

# 堂園遺跡

福岡県春日市小倉所在の遺跡

春日市文化財調査報告書 第67集



## 序

春日市は福岡市の南に隣接し、昭和47年の市制施行以来、福岡市のベッドタウンとして都市化が進みました。かつての農地や山林は開発され、これらの開発に先立ち遺跡の発掘調査が行われた結果、貴重な文化財が多く確認されることになりました。その一方で、住宅開発が早くに行われたため、調査ができずに開発されてしまった地域もあります。堂園遺跡がある旧小倉村は春日市の中央に位置し、大半が住宅地となっています。当地域は埋蔵文化財が多く所在する地域ではありますが、埋蔵文化財以外にも小倉住吉神社で行われる、半煮えの料理や牛の舌餅が供えられる十月例祭や、嫁のしりたたき、盆綱引きといった行事が傳承されている地域でもあります。

本書は春日市が平成20年度に発掘調査を実施した堂園遺跡1次調査の調査報告書です。堂園遺跡は旧小倉村集落の南部にあたり、宅地造成により丘陵部の多くは削平されましたが、1次調査では、削平される前の遺跡を想定する上で知見を得ることができました。

本書が埋蔵文化財への理解を深める研究資料として活用され、また市民の皆様が郷土の歴史を知る一助となれば幸いです。

最後になりましたが、発掘調査に際し御指導御協力を賜りました方々に深く謝意を申し上げます。

平成24年3月31日

春日市教育委員会  
教育長 山本直俊

## 例 言

1. 本書は2008年8月6日から同年9月5日にかけて春日市教育委員会が実施した堂園遺跡1次調査の報告書である。
2. 遺構の実測は森井千賀子、吉田浩之が行い、製図は伊東ひかりが行った。
3. 遺物の実測は柳智子、島津屋幸子、川端美由紀、久家春美、桑野暢子、森井が行い、製図は島津屋、柳、森井が行った。
4. 掲載した写真のうち、遺構については森井が撮影し、遺物については岡記久夫（文化財写真工房）が行った。
5. 本書に使用した2万5千分の1の地形図は、国土地理院発行の『福岡南部』（1991年）である。
6. 出土した陶磁器の分類は宮崎亮一編「大宰府条房跡XV 陶磁器分類編」2000 太宰府市教育委員会による。
7. 土層断面観察の記載について、土色は小山正志・竹原秀雄編『新版標準土色帳』1996年後期版 農林水産省農林水産技術会議事務局 財団法人日本色彩研究所色票監修を用いた。
8. 本書の執筆、編集は森井が行った。

## 本文目次

I はじめに	1
1 調査に至る経過	1
2 調査の組織	1
II 遺跡の位置と環境	2
III 調査の内容	6
1 調査の概要	6
2 出土遺物	8
(1) 土器・陶磁器	8
(2) 土製品	16
(3) 瓦	16
(4) 青銅器鑄造関連遺物	18
(5) 鉄器類	18
(6) 石器	18
IV まとめ	20

## 図版目次

図版1 (1) 調査区西半全景(東から)	
(2) 調査区西半西壁土層断面(北東から)	
図版2 (1) 調査区東半全景(南から)	
(2) 調査区東半東壁土層断面(西から)	
図版3 (1) 第2トレンチ東壁土層断面(南西から)	
(2) 第2トレンチ南端西壁(東から)	
図版4 包含層出土弥生土器	
図版5 包含層出土弥生土器、須恵器、瓦	
図版6 包含層出土土製品、石器、鉄器、青銅器鑄造関連遺物	

## 挿図目次

第1図 堂園遺跡周辺遺跡分布図(1/25,000)	3
第2図 堂園遺跡位置図(1/2,500)	4

第 3 図	旧地形復元図による調査位置図 (1/2,500) .....	5
第 4 図	堂園遺跡 1 次調査遺構配置図 (1/100) .....	6
第 5 図	調査区西側第 1 トレンチ土層断面実測図 (西壁) (1/40) .....	7
第 6 図	調査区東側第 2 トレンチ土層断面実測図及び模式図 (東壁) (1/40) .....	7
第 7 図	調査区東側東壁土層断面実測図 (1/40) .....	8
第 8 図	弥生土器実測図① (1/4) .....	9
第 9 図	弥生土器実測図② (1/4) .....	10
第 10 図	弥生土器実測図③ (1/4) .....	11
第 11 図	弥生土器実測図④ (1/4) .....	12
第 12 図	土師器実測図 (1/3) .....	13
第 13 図	須恵器実測図① (1/3) .....	14
第 14 図	須恵器実測図② (1/3) .....	15
第 15 図	陶磁器実測図 (1/3) .....	15
第 16 図	土製品実測図 (1/2) .....	16
第 17 図	瓦実測図 (1/3) .....	16
第 18 図	青銅器生産関連遺物実測図 (1/2) .....	17
第 19 図	鉄器・鉄滓実測図 (1/2) .....	18
第 20 図	石器実測図 (1/2) .....	19

## 表 目 次

表 1	出土土器一覧表 .....	21
-----	---------------	----

# I はじめに

## 1 調査に至る経過

堂園遺跡1次調査は個人住宅建設に伴う緊急発掘調査である。対象地の地番は福岡県春日市小倉2丁目73、90、91-1、92-1番で、開発に先立ち埋蔵文化財事前調査依頼書が提出され、2008年7月8日に確認調査を行った。その結果、対象地の一部に遺構が確認されたため、市費単独事業として本調査を実施することとなった。調査は土置き場の確保のため、反転して調査を行った。発掘調査は2008年8月6日から開始し、同年9月5日に終了した。

## 2 調査の組織

発掘調査を行った平成20年度、報告書刊行の最終的作業を行った平成23年度の調査の組織は以下のとおりである。

### 発掘調査（平成20年度）

教 育 長 山本 直俊  
部 長 箕原 三郎  
文化財課長 古賀 俊光  
文化財課長補佐兼管理係長  
白水 心子  
管 理 係 主 査 堀足 雅弘  
同 主 事 山田ひとみ  
文化財係 係 長 平田 定幸  
同 主 査 吉田 佳広  
同 主 査 森井千賀子  
同 主 任 井上 義也  
同 嘱 託 吉田 浩之  
同 嘱 託 長谷部真弓

### 報告書作成（平成23年度）

教 育 長 山本 直俊  
部 長 古賀 俊光  
文化財課長 広瀬 貴之  
文化財課長補佐兼管理担当係長  
平田 定幸（～4月）  
統括係長 中村 昇平（5月～）  
管理担当 主 査 増永 睦司  
同 主 任 山田ひとみ  
同 主 事 佐伯 廣宣  
文化財担当 係 長 中村 昇平（～4月）  
同 主 査 吉田 佳広  
同 主 査 森井千賀子  
同 主 任 井上 義也  
同 嘱 託 柳 智子  
同 嘱 託 鳥津屋幸子  
同 嘱 託 上原 あい

## II 遺跡の位置と環境

堂園遺跡は福岡県春日市小倉2丁目に所在する。福岡平野の南側に位置する牛頸山から北へ延びる春日丘陵上に位置する。この春日丘陵の中央部で、丘陵を東西に隔てる谷部の北側に面した小丘陵の斜面にあり、標高34m前後を測る。

春日丘陵は細かく見ると樹枝状の小さな丘陵と谷部からなり、この小丘陵上に弥生時代の遺跡が展開する。特に春日丘陵の北部とその周辺に弥生時代の遺跡が密集しており、これらを総称して須玖遺跡群という。その範囲は南北約2km、東西約1.5～2kmに及び、須玖遺跡群からは青銅器生産関連遺物等が多数出土し、質、量ともに卓越した内容であることから、弥生時代中期から後期末頃にかけ奴国の中心部であったと考えられる。

当遺跡は昭和30年代頃に造成され、地形は大きく変化しているが、それ以前の写真を基に復元された古地形図によると当遺跡は畑として利用されており、小丘陵は高い所で標高約40m前後、春日丘陵を東西に隔てる谷部の標高は約32m前後であり、傾斜の急な斜面下の畑であったといえる。

昭和37年以降に発行された「春日町埋蔵文化財出土分布図」には、仁王手A遺跡と堂園遺跡のちょうど中間部分で、現在の小倉コミュニティ供用施設の北西側に弥生時代の遺物が出土した記号が印されている。春日市内で発掘調査が行われたのは須玖岡本遺跡の事例を除けば、昭和35年以降に福岡教育委員会を調査主体とした大南遺跡の発掘調査が行われていることから、この「春日町埋蔵文化財出土分布図」は表探、もしくは工事中の不時発見によって遺物が確認されたことに基づき作成されたと思われる。その後、昭和52年の4月と6月に表探された弥生土器と須恵器の資料が当資料館に保管されており、ラベルに「小倉窯跡」とある。表探された詳しい場所は不明であるが、現在の小倉コミュニティ供用施設付近で、その状況や表探された資料から窯跡の存在が想定されていたようである。

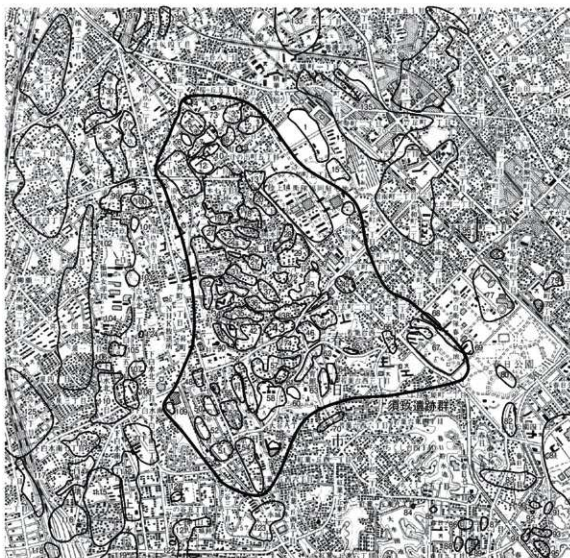
この他、周辺の遺跡には北側の丘陵上に弥生時代後期の鉄器工房である仁王手A遺跡がある。東南側の小丘陵上には弥生時代から歴史時代の集落であるナライ遺跡がある。ナライ遺跡で検出された竪穴住居跡52軒のうち弥生時代のものは30軒以上と推察されており、出土遺物から弥生時代の集落は中期中葉には形成されていたと考えられている。(註1) 南側の小丘陵上には金付遺跡がある。金付遺跡は堂園遺跡との間の谷部しか調査されていないが、弥生土器や木器が多く出土していることから、小丘陵上に集落の存在が想定される。また、金付遺跡は糞棺墓も存在していたといわれている。(註2) 金付遺跡のさらに南側の大南遺跡は弥生時代中期から後期の住居跡とこの集落を取り囲む環濠が検出された。環濠から出土した遺物で特筆されるものには完形の広形銅戈鋳型があるが、最近の整理作業で埴壇/取版が確認されたことから、当遺跡でも青銅器生産工房跡が存在した可能性が高い。西南西側に位置する大南B遺跡は、弥生時代後期前半の竪穴住居跡から銅矛中子、鞆羽口が出土しており、青銅器生産に関係する集落の一部であるといえる。(註3)

(註1) 春日市史編纂委員会編「第2章弥生時代 第2節春日市中部の遺跡」『春日市史』上巻(1996)

(註2) 春日市教育委員会編「1. 金付遺跡」『平成21年度 春日市文化財年報』(2011)

(註3) 春日市教育委員会編「大南遺跡B地点」(2004)『大南遺跡B地点』は報告書刊行後、周知の埋蔵文化財包蔵地の追補訂正を行った際に、遺跡名を「大南B遺跡」に改めた。





1 下大荒	24 岡本ノ辻	47 松丞	70 小倉水城跡	93 向谷古城群	116 門田
2 須玖栗田	25 赤井手	48 宮の下	71 小倉新池	94 向谷南	117 柏田
3 須玖柿町	26 平若B	49 飛舟	72 ケン牛	95 春日平田北	118 下原
4 三十六	27 平若C	50 一の谷A	73 比恵虎	96 中ノ原	119 天神ノ木
5 須玖産梨	28 柚ノ木A	51 一の谷B	74 金付	97 御殿	120 向野
6 智ヶヶ本	29 柚ノ木B	52 一の谷C	75 駿河D	98 野藤	121 天神山水城跡
7 須玖五反田	30 クミイケ	53 原田B	76 原町	99 浦田	122 池ノ内
8 須玖永田	31 石橋	54 原田C	77 駿河A	100 上ノフケ	123 大土居水城跡
9 水町	32 竹ヶ本A	55 トノロ	78 駿河B	101 神邊	124 藤久B
10 須玖水田B	33 竹ヶ本B	56 林田	79 駿河E	102 古野ノ上	125 粟野郷B遺跡群
11 須玖タカウタ	34 竹ヶ本C	57 大南A	80 春日公園内	103 川久保	126 粟野原遺跡群
12 須玖坂本B	35 西谷	58 大谷	81 九州大学・御供田	104 川久保B	127 日佐遺跡群
13 須玖庵花町	36 寺屋敷A	59 原田A	82 新ノ原	105 下ノ原	128 梅手遺跡群
14 上平田・天田	37 寺屋敷B	60 高辻A~C	83 春日水城跡	106 下立頭	129 笠掛遺跡
15 大荒	38 仁王手A	61 高辻E	84 大牟田池原跡	107 重久	130 寺島遺跡
16 大坪	39 仁王手B	62 高辻D・F	85 惣利1号原跡	108 天神堂	131 井尻B遺跡群
17 須玖岡本	40 豆塚山	63 ノヒラオ	86 惣利2号原跡	109 神田池北	132 井尻C遺跡群
18 須玖巖石	41 藤波	64 小倉池ノ下	87 惣利北	110 古水	133 三瓦遺跡群
19 岡本ノ上	42 大南B	65 西平塚	88 惣利西	111 石尺	134 栗野C遺跡群
20 野添	43 堂園	66 高ノ浦	89 惣利東	112 寺田・長崎	135 南八幡遺跡群
21 野野	44 伯玄社	67 立石	90 向谷北	113 白井塚	136 羅針原遺跡群
22 平若A	45 ササノマエ	68 先ノ原B	91 向谷	114 辻堀	
23 上飯田	46 ナライ	69 先ノ原A	92 向谷西	115 中白水	

第1図 堂園遺跡周辺遺跡分布図 (1/25,000)



第2図 堂園遺跡位置図 (1/2,500)



第3図 旧地形復元図による調査位置図 (1/2,500)

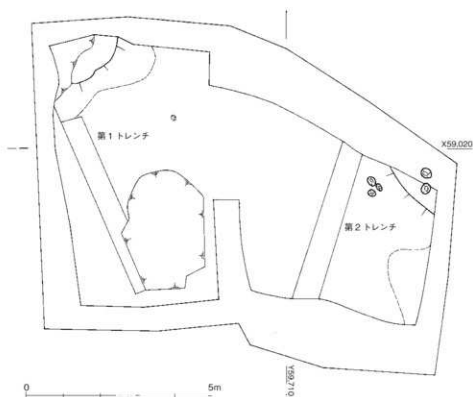
### Ⅲ 調査の内容

#### 1 調査の概要

堂園遺跡は確認調査において遺構がみられた北西部分を調査対象範囲とした。範囲が狭小であり、土置き場の確保のため、反転調査を行った。

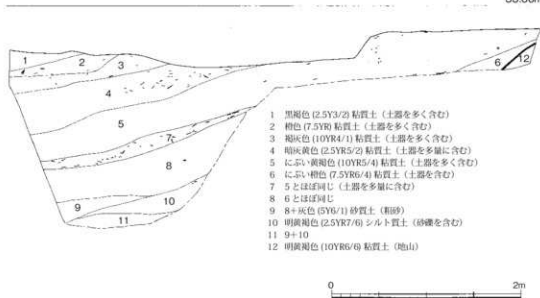
調査対象範囲内で確認された遺構はピットのみで、調査区の北東側に限られる。他はすべて包含層である。遺構検出にあたって地山が調査区の北西部にしか確認できなかったことから、この地山に直交する方向にトレンチを設定し地山を追うことにしたが、包含層の堆積が厚く、限られた期間と費用で調査をするには人力では困難であると想定されたため、重機で包含層を掘削することにした。しかし、包含層に含まれる遺物が多かったことから慎重に作業をすすめた。その後、対象面積が狭小であることと、旧地形が南に下がる急傾斜であったことから、重機による掘削も限度があり、調査区のほとんどは地山に達することができなかった。地山を検出した範囲については、遺構配置図で波線を引いたところまでである。調査は安全面を考慮しながら可能な深さまで掘削し、遺物の取り上げと土層の記録に努めた。

今回の調査で確認されたピットは5基であり、このうち4基から遺物が出土したが、いずれも細片



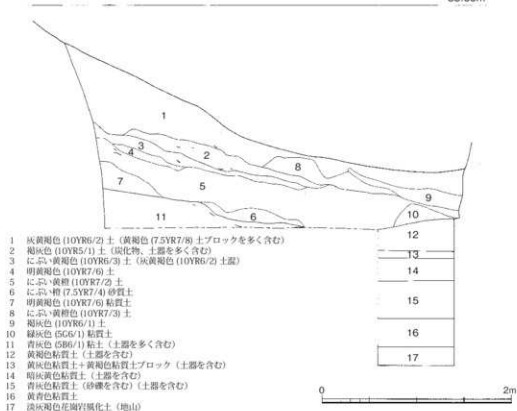
第4図 堂園遺跡1次調査遺構配置図 (1/100)

33.60m

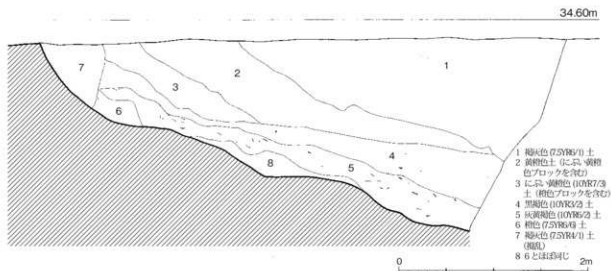


第5図 調査区西側第1トレンチ土層断面実測図(西壁) (1/40)

33.60m



第6図 調査区東側第2トレンチ土層断面実測図及び模式図(東壁) (1/40)



第7図 調査区東側東壁土層断面実測図 (1/40)

でかつ磨滅しており、時期の特定はできない。また、ピットは包含層上から掘られたものである。

反転前の調査区西側は、調査区の現地表面から深さ約50～80cmで西北隅のみに地山が確認され、南東方向に低く傾斜しながら包含層が堆積する。地山に直交して第1トレンチを設定した。トレンチを深さ50cmまで人力で掘り下げ、以下は重機でトレンチの南部を掘り下げた。土層断面図実測図には掲載していないが、現地表面から約3mの深さ(標高約31.05m前後)で砂礫を多く含むオリープ灰色粘質土の地山を確認した。包含層も一様に遺物を包含しているのではなく、2～4層、7層に多く包含している。

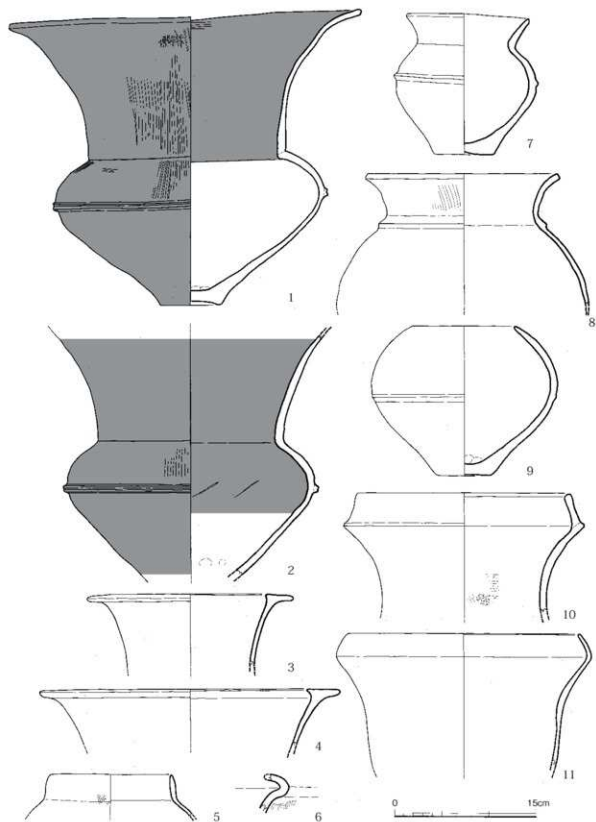
反転後の調査区東側は、調査区の北東隅において現地表面から深さ約30cm前後でピットが確認されたため、この面での遺構検出を行った。しかし、遺構はこれ以降確認されなかったため、包含層を掘り下げたところ、調査区の南東隅では現地表面から深さ約2m前後で地山に達した。地山は西方に小さく張り出しており、一様な急斜面ではないようである。調査区東側東壁土層実測図(第7図)の1～3層は近年の造成による埋土と思われる。5層に最も多くの遺物が含まれていた。反転後も人力で面的に地山に達することは困難であったため、南北方向に第2トレンチを設定し、標高31.3mまで人力で掘り下げたが、これより下は重機で下げたところ、標高約30.1mで淡灰褐色花崗岩風化土の地山に達した。このトレンチ内を重機で下げた際に採集できた遺物のほとんどが弥生土器である。

## 2 出土遺物

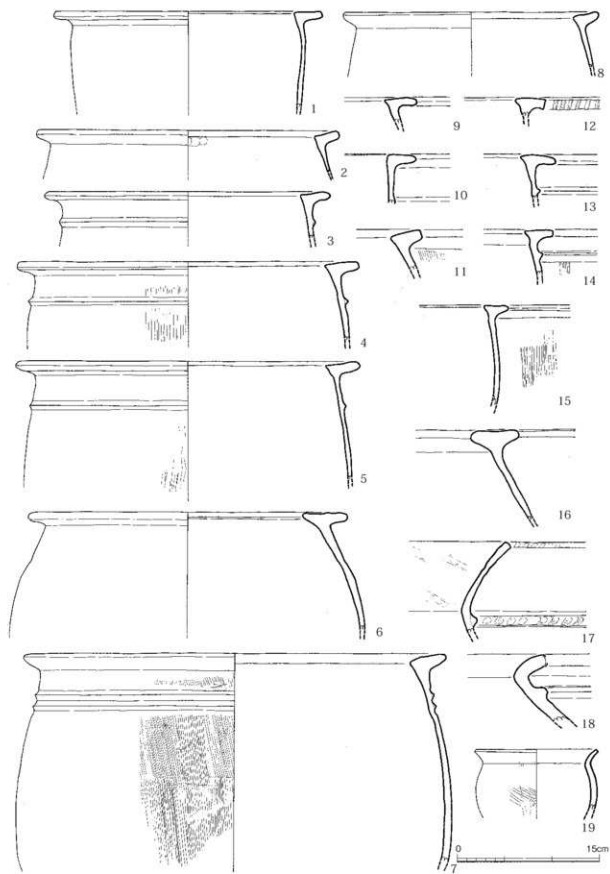
(1) 土器・陶磁器(図版4・5 第8～15図)

弥生土器(図版4・5 第8～11図)

弥生土器は、壺、甕、鉢、蓋、甕が出土した。第8図の1～11は壺で、1～4は広口壺、5は短頸壺、6は袋状口縁壺、9は無頸壺、10、11は複合口縁壺である。1は口縁部外面に斜格子状に暗文を施している。また、胴部にはM字突帯があり、突帯から上部に細線を6箇所刻んでいる。2も1と同

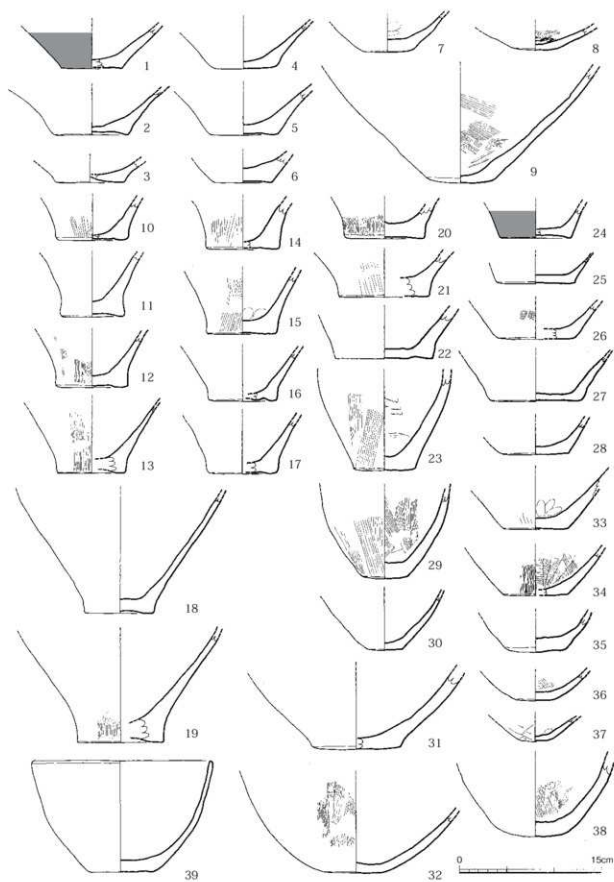


第8图 弥生土器实测图①(1/4)

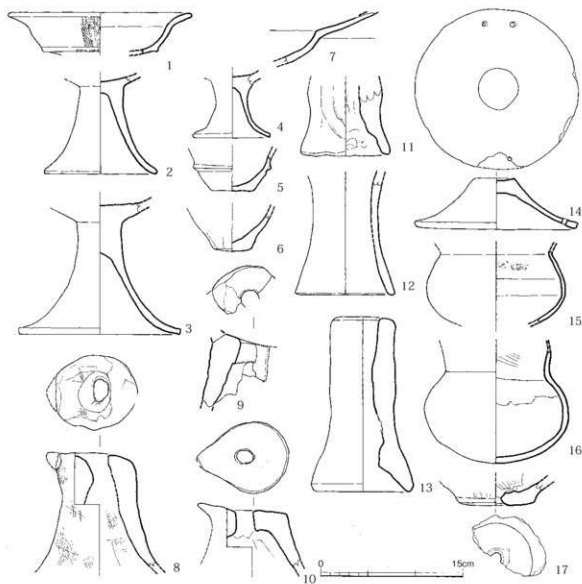


第9圖 弥生土器実測圖② (1/4)





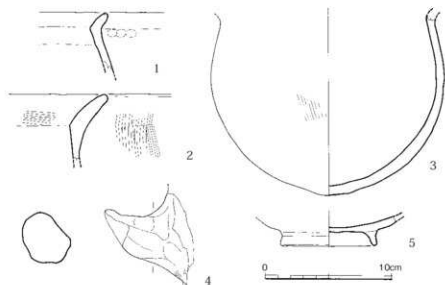
第10图 弥生土器实测图③(1/4)



第 11 図 弥生土器実測図④ (1/4)

様に胴部の M 字突帯から上に細線を施している。また胴部内面には工具があたったと思われる痕跡が等間隔にみられる。1、2とも丹塗りである。8は器壁の摩滅が著しいため不明瞭ではあるが、口縁端部に刻み目を施している。3～5、11は第1トレンチの5層、1、2は7層から出土した。9は第2トレンチの5層から出土したが、1層から出土した破片と接合した。9の壺は広口壺の口頸部がない形状であり、端部を丸く仕上げている。10は下大限式で口縁の複合部分が直線的に内側へ傾く。11は口頸部の頸部に近い部分がやや内湾しているが焼むずみによるものか。

第9図の1～18は裏で、6、16は鋤先形口縁であるが、逆L字形で口縁部下に断面三角形の突帯を持つものが多くみられる。7は口縁部下に断面三角形の突帯を2条めぐらす。12は口縁端部に刻み目がみられる。17は口縁が外反しながら直線的に立ち上がり、口縁端部と頸部の突帯には刻み目がある。1、4、5、7は第2トレンチの11層から出土した。1は第2トレンチの1層出土の破



第12図 土師器実測図(1/3)

片と接合した。19は小型の甕である。

第10図は底部で、1～9は壺、10～38は甕である。1～6はやや上げ底で、7～9は底部側面がわずかにくぼみ不安定な平底である。39は鉢である。

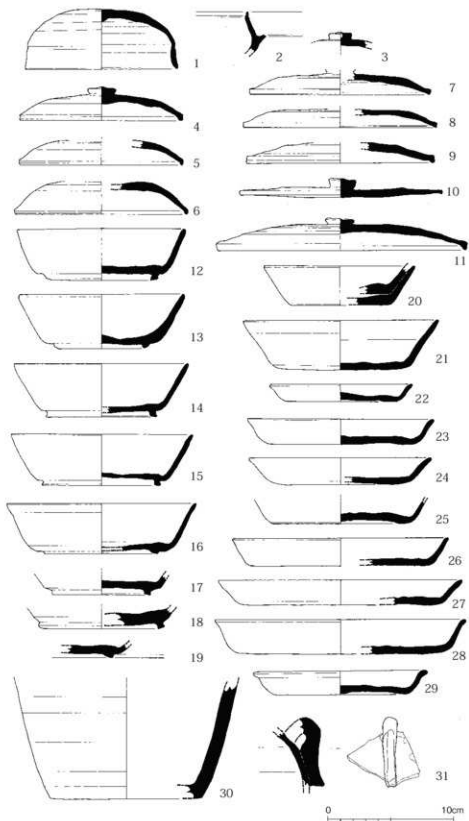
第11図の1～4、7は高坏、5、6は小型の鉢、8～10は支脚、11～13は器台、14は蓋、15、16は壺、17は甕である。1は坏部の破片であるが、口縁部は外傾し、坏部の屈曲部には突帯があり刻み目を施している。2～4は高坏の脚部で、脚部は外反しながらひらく。7は坏部が丸く、坏部と口縁部の境界が明瞭である。ここでは高坏としたが、脚部のない鉢の可能性もある。5は体部に断面三角形の突帯あり。8～10の支脚は上端部の一端を斜め上方に突き出したタイプである。12は鼓形の器台、13は両端が外側に開かず、片方を直線的に仕上げている。14は短頸壺とセットになる蓋で、口縁部に2ヶ所穿孔あり。15、16は直口壺の胴部～底部である。17は底部に焼成前の穿孔があり、甕として使用されたと考えられる。

#### 土師器(図版5 第12図)

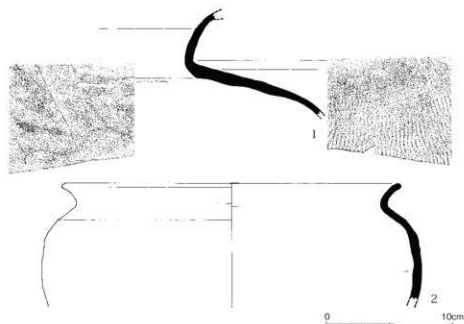
第12図は1～3は甕、4は甕の取手、5は碗である。1は口縁部が短く、頸部外面に指圧痕が残る。2は内面の口縁部と胴部の境界が明瞭で、口縁部内面にヨコハケを施す。3は小型の甕で、胴部中央に最大径がある。5は土師器碗の高台部の破片である。

#### 須惠器(図版5 第13・14図)

第13、14図は須惠器で、第13図の1は古墳時代の坏蓋、2は坏身、3～31は奈良時代の須惠器で、3～11は蓋、12～21は坏、22～29は皿、30、31は壺、第14図の1は大甕、2は壺である。第13図の1は口縁部と体部の境に沈線があり、口縁端部の内面に段を有する。外面は約1/2以上回転ヘラケズリを施し、天井部内面には同心円状の当て具痕あり。2は口縁部から受け部の破片で、口縁部は直線的に外傾する。口縁端部の内面に段を有する。3～11の坏とセットになる蓋は天井部

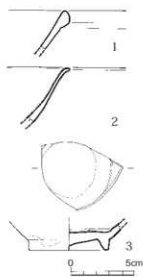


第13図 須恵器実測図① (1/3)



第14図 須恵器実測図② (1/3)

につまみがあり、口縁端部は内側に折曲げるものと、8のように折り曲げないものがある。10は焼けひずみにより、体部から口縁部にかけて外側に反っている。口径は13～15cm 前後のものが多くみられる。坏はいずれも口縁が直線的に立ち上がる。20は2個体が溶着している。皿も口縁が直線的に立ち上がるが、28、29は口縁端部が外反する。30は瓶の胴部下半の破片で、31は双耳瓶の耳部分の破片である。1は第5図5層から出土。9、10、12～15、28、31は第7図4層から出土。5、16は5層から出土した。3、19は第6図5層から出土した。

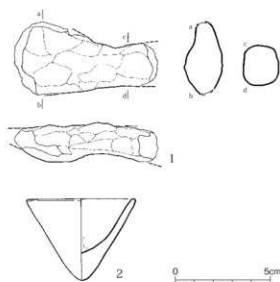


第15図 陶磁器実測図 (1/3)

第14図1は大甕の頸～胴部上半にかけての破片で、胴部外面はタテ方向のタタキ目があり、内面は無文の当て具痕あり。2の甬は口縁部を短く外反させるタイプで、胴部上半に最大径あり。2は第7図4層から出土した。

#### 陶磁器 (第15図)

第15図1～3は白磁の碗で、1～3とも胎土は灰白色で釉は灰オリーブ色を呈する。1は玉縁口縁で、貫入がみられる。2の口縁部は屈曲し上部が水平である。体部外面にピンホールがみられる。3は底部の破片で釉は灰白色であり、内面見込みには釉を掻きとっている。1は大宰府陶磁器分類のIV類、2はV類、3はⅦ類にあたる。



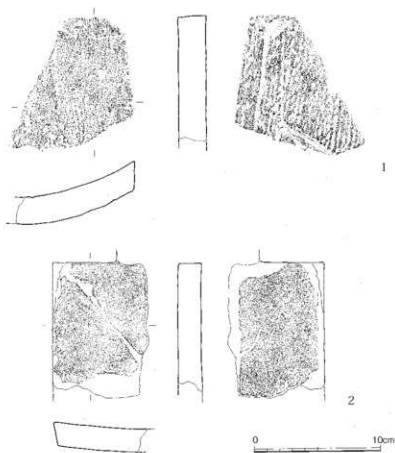
第16図 土製品実測図 (1/2)

(2) 土製品 (図版6 第16図)

1の外形は匙状であるが、匙部分は凹まずやや膨らんでいる。現存長7.6cmを計る。用途不明。  
2は手捏ね土器であるが、底部が丸みを帯びながら尖っており、底部から口縁部にかけて直線的に開く。

(3) 瓦 (図版5 第17図)

1は平瓦で側面の破片である。凸面は縄目タタキ、凹面は糸切りの上に布目痕あり。  
2は棧瓦か。



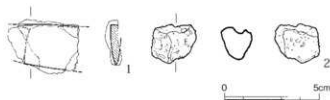
第17図 瓦実測図 (1/3)



第18図 青銅器生産関連遺物実測図 (1/2)

#### (4) 青銅器鑄造関連遺物 (図版6 第18図)

1、2は青銅器の石製鋳型で、1は調査区西北部の遺構検出時に出土した。砥石に再利用されているため彫り込みが明瞭ではないが、銅矛の間部分と考えられる。この銅矛の型がある面と反対側の面には、樋のような溝状の彫り込みと側面に平行する段状の加工がみられる。この面以外は平滑であり、砥石として再利用



第19図 鉄器・鉄滓実測図(1/2)

されている。2は銅戈の胡部分である。胡部分には淡い黒変がみられる。調査区東側の第6図5層から出土した。1、2とも石材は石英長石斑岩で、きめが細かく乳白色を呈する。3は細片のため断定はできないが、坩堝/取瓶と思われる。口縁部で口縁端部から約2cmのところのところに焼成前の穿孔があり注口部分か。内外面ともナデによる調整が施され、口縁端部は指圧痕があり内側がやや凹む。褐～褐色を呈するが、被熱による変色等の痕跡はない。口縁部外面にわずかに植物の繊維質と思われる圧痕がみられる。

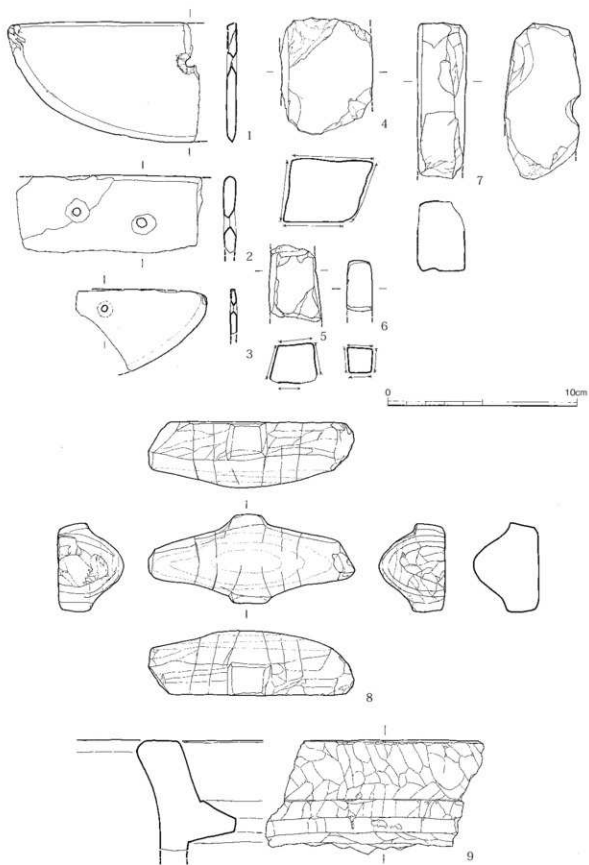
#### (5) 鉄器類 (図版6 第19図)

1は鉄鎌で、残存長3.75cm、残存幅2.5cmを計る。2は鉄滓で、長さ2.05cm、幅2.35cm、重さ8.3gである。不定形で気孔が多くみられる。

#### (6) 石器 (図版6 第20図)

1～3は石庖丁、4～6は砥石、7は柱状挟入片刃石斧、8は把頭飾、9は石鍋である。1は孔端9.0cmで最大厚は背部にある。刃部と背部は丁寧に磨かれており、孔の縁に穿孔時のものと思われる敲打痕がある。2は全体的に摩滅が著しく、背から孔にかけて残存し刃部を欠損する。孔の内径は(右)4.1mm～(左)4.6mm、外径(右)12.0mm、孔間35.0mm、背高(右)22.4mmである。最大厚は背～孔の間である。6は砂岩製の砥石で、残存長2.6cm、最大幅1.4cm、最大厚1.4cmを計る。断面はほぼ正方形で、四面とも砥石として使用されている。8の把頭飾は調査区東側の包含層を重機で掘削中につつけたため正確な位置はわからないが、およその位置は調査区東北部で第7図5層からである。全長10.9cm、高さ3.5cm、最大幅4.7cmを計る。断面は楕円形を短辺で半截した形に方形の突出部を削り出している。底部の平面に直交する方向に突出部を挟んで3ヶ所に細線を刻んでいる。また、全長の両端も特に底面近くは磨かれている。9は滑石製の石鍋で、口縁端部から外面突帯にかけてケズリ調整、内面は端部を面取状に削り後ミガキ、それ以下はタテ方向のケズリ後ミガキ調整を施している。





第20图 石器实测图 (1/2)

## IV まとめ

堂園遺跡1次調査は小丘陵斜面の包含層の調査である。調査区内では明確な機能特定できる遺構を確認する事はできなかったが、包含層の存在から小丘陵上及び斜面地にかつて遺跡が存在した事が推測される。包含層に含まれていた遺物の時期は大きくは弥生時代中期から後期にかけてと奈良時代の2時期に分けられ、弥生時代の遺物は日常土器が主体である事から通常の集落、奈良時代の遺物には溶着し製品として流通しない須恵器が含まれることから須恵器窯跡の存在が想定される。

弥生時代中期から後期にかけての集落については、包含層より出土した遺物の大半は弥生時代中期後半の弥生土器で、最下層からは弥生時代中期後半の弥生土器が出土していることから、この頃に集落が形成されたと考えられる。

春日丘陵上に所在する須玖遺跡群を構成する集落では、青銅器生産関連遺物の出土がみられる。このことは丘陵上の各集落で分散的に青銅器生産が行われ、後期になると須玖岡本遺跡周辺の春日丘陵北部の低地に集結されていく。(註1) 当遺跡においても、青銅器生産関連遺物が出土しており、須玖遺跡群内の集落遺跡と同様の状況が想定される。

奈良時代には須恵器窯跡が近くの斜面にあったと推定される。かつて当遺跡付近で採集された須恵器も同時期の8世紀中頃から後半のもので、そのほとんどが小型器種である。須恵器生産は牛頸窯跡群を中心に行われており、8世紀代の様相は小型器種の生産が盛んになり窯跡数も多く、牛頸窯跡群付近で数基程度の小規模な窯跡群が存在している。(註2) 当遺跡は牛頸山山麓から若干距離がはなれているが、当遺跡においても小型器種が多くみられることから牛頸窯跡群の影響下におかれた生産であったと考えられる。

今回の調査は包含層の調査であり、調査面積も狭小であることから、かつて存在したであろう遺跡について想定するに過ぎない。須玖遺跡群が所在する春日丘陵上は宅地化しているため調査面積が狭小であることが多く、谷部の包含層は調査対象になることが少なかったが、最近では堂園遺跡2次調査や金付遺跡など谷部の調査例も増えつつある。さらに調査の増加に期待したい。

(註1) 平田定幸・井上義也「須玖遺跡群」『考古学ジャーナル』No.611 (2011)

(註2) 石木秀啓「牛頸窯跡群と九州の須恵器生産体制」『国立歴史民俗博物館研究報告』第134集(2007)

表1 土器一覧表

( ) は底径値

番号	採回 段階	器種	出土位置	法量 (cm)①口径器高 ②底径③胴部最大径④底部径	現存状態	調整及び特徴	備考
1	第8回	甕	第5回7層	①37.3②30.3③16④29.0	口縁-胴部下 半にかけて約 1/3欠損	外面はヨコ方向のミガキ輪縁部を除く、口縁部はヨコ方向のミガキ 帯、胎土は3mm以下の石英、長石、雲母、赤色砂粒を多く含む。焼 成良好。色調は内外面ともに黄褐色。	丹塗り
2	第8回	甕	第5回7層	①(26.9)	口縁部 欠損	外面はミガキの帯、裏方縁部を除く。内面は胎土のため黄褐色。 胎土は4mm以下の石英、長石をわずかに含む。黄褐色雲母砂子 もわずかに含む。焼成良好。色調は内外面ともに黄褐色。	丹塗り
3	第8回	甕	第5回5層	①(21.9)	口縁部1/6	調整は不明。胎土は3mm以下の石英、長石を含む。雲母、角閃石、 褐色粒をわずかに含む。焼成は良好。色調は内外面ともに黄褐色。	
4	第8回	甕	第5回5層	①(31.8)	口縁部1/2	調整は不明。胎土は3mm以下の石英、長石を含む。雲母、角閃石、 褐色粒をわずかに含む。焼成は良好。色調は内外面ともに黄褐色。	
5	第8回	甕	第5回5層	①(13.0)	口縁部1/4	調整は内外面ともにタテハウ後ナゲ。胎土は砂粒をほとんど含まず 精良。焼成は良好。色調は内外面ともに黄褐色。	
6	第8回	甕	第5回7層		口縁部1/8	調整は外面は口縁部ヨコナゲ、内面ナゲ。胎土は3mm以下の石英、長 石を含む。焼成は良好。色調は内外面ともに赤褐色。	
7	第8回	甕	第6回2~4層	①130②149③160④153	ほぼ完形	調整は外面ヨコナゲ、内面不明。胎土は1mm以下の石英、長石、雲 母を含む。焼成はやや不良。色調は内外面ともに黄褐色。	
8	第8回	甕	第5回3~4層	①(20.7)	口縁部1/3	調整は外面タテハウ。内面不明。胎土は3mm以下の石英、長石を非 常に多く含む。焼成は不良。色調は外面に淡い褐色-灰白色、内面明 黄褐色。	
9	第8回	甕	第6回11層	①(10.7)②158③5.5④(19.6)	全体の1/3	調整は雲母ヨコナゲ。その他不明。胎土は6mm以下の石英、長石を 多く含む。黄褐色雲母をわずかに含む。やや粗。焼成良好。色調 は内外面ともに黄-灰黄色。	
10	第8回	甕	包含層	①(22.6)	口縁部1/5	調整は外面不明、内面腹方のナゲ。胎土は0.5~3mm程度の石英、長石、 その割合を多く含む。雲母(石か?)を多く含む。焼成やや不良。色 調は外面黄褐色-淡褐色-淡灰色、内面明黄褐色-灰白色-暗褐色。	
11	第8回	甕	第5回5層	①(24.3)	口縁部1/3	調整は不明。胎土は0.5~3mm程度の石英、長石を多く含む。1 mm以下の雲母片もわずかに含む。やや粗。焼成良好。色調は外面 灰白色-灰白色、内面灰白色。	
1	第9回	甕	第6回11層	①(28.4)	口縁部1/4	調整は口縁部がヨコナゲ。その他は調整不明。胎土は1~2mm粒 の石英、長石、雲母を非常に多く含む。焼成やや不良。色調は内外 面ともに黄褐色。	
2	第9回	甕	第6回11層	①(32.0)	口縁部1/6	調整は口縁部がヨコナゲ。その他は調整不明。胎土は3mm以下の石 英や、1mm以下の長石を多く含む。褐色粒、雲母、角閃石を含む。 やや粗い。焼成良好。色調は外面黄褐色、内面灰黄色-灰白色。	
3	第9回	甕	第6回1層	①(30.2)	口縁部1/4	調整は口縁部がヨコナゲ。その他は調整不明。胎土は3mm以下の石 英、長石等をやや多く含む。黄褐色雲母砂子も少量含む。やや粗。 焼成やや不良。色調は内外面ともに淡い褐色。	
4	第9回	甕	第6回11層	①(36.2)	口縁部1/4	調整は口縁部がヨコナゲ。胴部外面はタテハウ。雲母部はヨコナゲ、 内面は調整不明。胎土は2mm前後の石英、長石、雲母を非常に多く 含む。焼成良好。色調は内外面ともに黄褐色。	
5	第9回	甕	第6回11層	①(36.4)	口縁部1/4	調整は口縁部がヨコナゲ。胴部外面はタテハウ。雲母部はヨコナゲ、 内面は調整不明。胎土は1mm前後の石英、長石、雲母を含む。焼成 やや良好。色調は内外面ともに黄褐色。	灰付着
6	第9回	甕	第5回7層	①(33.7)	口縁部1/3	調整は不明。胎土は1~3mm以下の石英、長石を非常に多く含む。 焼成良好。色調は内外面ともに赤褐色。	
7	第9回	甕	第6回11層	①(44.7)	口縁部1/2	調整は口縁部がヨコナゲ。胴部外面はタテハウ。内面は不定方向の ナゲ。胎土は4mm以下の石英、2mm以下の長石を含む。雲母を含む。 焼成良好。色調は内外面ともに淡い褐色。	灰付着
8	第9回	甕	第6回11層	①(27.0)	口縁部1/6	調整は内外面ともにヨコナゲ。胎土は3mm以下の石英、1mm以下 の長石を多く含む。褐色粒、雲母、角閃石を若干含む。やや粗い。 焼成良好。色調は内外面ともに灰白色-褐色。	
9	第9回	甕	第6回1層		口縁部小片	調整は不明。胎土は1mm以下の赤褐色、石英、長石、雲母を多く含む。 焼成良好。色調は内外面ともに灰褐色。	
10	第9回	甕	包含層		口縁部小片	調整は口縁部がヨコナゲ。その他は調整不明。胎土は1mm以下の 石英、雲母をわずかに含む。焼成やや不良。色調は外面ともに黄 褐色。	
11	第9回	甕	第6回11層		口縁部小片	調整は口縁部がヨコナゲ。外面はタテハウ。内面は不明。胎土は3 mm以下の石英、長石を多く含む。黄褐色雲母を含む。やや粗い。焼 成良好。色調は内外面ともに黄褐色。	灰付着
12	第9回	甕	第6回11層		口縁部小片	調整は外面がヨコナゲ。その他調整不明。胎土は3mm以下の石英、 長石をやや多く含む。やや粗。焼成良好。色調は外面灰白色-明黄 褐色、内面黄褐色。	
13	第9回	甕	第6回1層		口縁部小片	調整は口縁部がヨコナゲ。雲母部はヨコナゲ。その他不明。胎土は 2mm以下の石英、長石を少量含む。焼成良好。色調は内外面ともに 黄褐色。	
14	第9回	甕	第7回5層		口縁部小片	調整は口縁部がヨコナゲ。外面はタテハウ。雲母部はヨコナゲ。内 面はヨコナゲ。胎土は2mm以下の石英、長石をわずかに含む。焼成 良好。色調は外面赤褐色-淡灰色、内面黄褐色。	

番号	種別	器種	出土位置	法量 (cm) <sup>3</sup> (1)埋土器 <sup>2</sup> 底径 (3)胴部最大径(5)器口部径	残存状態	調整及び特徴	備考
15	第9段	甕	第6段11層		口縁部小欠	胴部は口縁部がヨコナテ、外面がタテハテ、内面は不明、胎土は1mm以下の石瓦、長石、雲母を多く含む。焼成良好。色調は外表面に赤褐色、内面灰色～黒褐色。	
16	第9段	甕類	第7段4層		口縁部小欠	胴部は口縁部がヨコナテ、内面は工具による横方向のナデ(ミチク?)、外面は不明、胎土は1mm以下の石瓦、長石、雲母を多く含む。焼成良好。色調は内外面ともに赤褐色。	
17	第9段	甕	表塚		口縁部小欠	胴部は口縁部が方向のナテ、外面不明、胎土は3.5mm以下の石瓦、長石をやや多く含むや中々。焼成やや良好。色調は内外面ともに赤褐色。	層内ないが、同一層に土器も残存している。
18	第9段	甕	第5段5層		口縁部小欠	胴部は外面タテハテ、頸部はヨコナテ、内面ヨコナテ、胎土は3mm以下の石瓦、長石、雲母を多く含む。焼成やや良好。色調は内外面ともに赤褐色。	
19	第9段	甕	第7段5層	①(13.1)×(12.8)	口縁部小欠 胴部1/2	胴部は口縁部ナテ、外面ハテ、内面ナテ、胎土は3mm以下の石瓦、長石を含む。焼成良好。色調は内外面ともに赤褐色。	
1	第10段	甕	第5段7層	②(6.4)	底部1/4	胴部は底部外面ナテ、外面タテ方向のミチク、内面は調整不明。胎土は1mm以下の石瓦、長石、雲母を含み粗製。焼成やや良。色調は外面明褐色～灰色、内面灰褐色。	丹摩り
2	第10段	甕	第6段5層	③(7.9)	底部完存	胴部は底部外面ナテ、底部内面に指部。その他調整不明。胎土は3mm以下の石瓦、長石を多く含む。焼成やや不良。色調は外表面に赤褐色、内面褐色。	
3	第10段	甕	第5段7層	④(7.4)	底部1/4	胴部は内外面ともにナテ、胎土は1～3mm程度の石瓦、長石を非常に多く含むや中々。焼成良好。色調は外面灰褐色～赤褐色、内面灰白色。	
4	第10段	甕	第5段5層	⑤(7.0)	底部完存	胴部は不明。胎土は3mm以下の石瓦、長石をやや多く含む。焼成良好。色調は内外面ともに黄褐色～赤褐色。	
5	第10段	甕	包舎樹	⑥(7.0)	底部1/2	胴部は底部外面ナテ、その他不明。胎土は3mm以下の石瓦、長石を含む。焼成良好。色調は内外面ともに赤褐色。	
6	第10段	甕	第5段5層	⑦(6.1)	底部完存	胴部は不明。胎土は砂粒をほとんど含まず精製。焼成良好。色調は内外面ともに赤褐色。	
7	第10段	甕	第5段5層	⑧6.0	底部完存	胴部は外面ナテ、内面は指注線あり。胎土は1mm以下の石瓦、長石を含む。焼成良好。色調は内外面ともに黄褐色。	
8	第10段	甕	第5段3-4層	⑨4.9	底部完存	胴部は外面不明。内面タテハテ。底部内面ヨコナテ。胎土は2mm以下の石瓦をわずかに含む。焼成良好。色調は外面明褐色、内面赤褐色。	
9	第10段	甕	第5段3-4層	⑩7.5	底部完存	胴部は内面ハテ。底部内面工具による圧痕あり。外面は不明。焼成やや良好。色調は外面灰褐色、内面灰褐色。	
10	第10段	甕	第5段5層	⑪(7.7)	底部1/2	胴部は外面ハテ後ナテ、外面底部ナテ。内面は不明。胎土は5mm以下の石瓦、長石を多く含む。焼成良好。色調は外面赤褐色、内面灰褐色。	
11	第10段	甕	第7段5層	⑫(6.8)	底部1/4	胴部は内面ナテ、外面不明。胎土は1～3mm程度の石瓦、長石を含む。焼成良好。色調は外表面に赤褐色、内面灰褐色。	
12	第10段	甕	包舎樹下Pin	⑬(7.6)	底部1/2	胴部は外面タテハテ。底部外面ナテ。内面不明。胎土は2mm以下の石瓦をやや多く含む。焼成やや不良。色調は外面赤褐色～赤褐色、内面灰褐色～黒褐色。	
13	第10段	甕	第6段11層	⑭(7.1)	底部1/3	胴部は外面タテハテ。内面不明。胎土は3mm以下の石瓦、長石などを少量含む。や中細。焼成良好。色調は外面明褐色～黄褐色、内面明褐色。	
14	第10段	甕	第6段1層	⑮7.8	底部3/4	胴部は外面タテハテ。内面不明。胎土は2mm以下の石瓦、長石を少量含む。焼成やや不良。色調は外面淡灰褐色～淡灰白色、内面灰白色～灰褐色。	
15	第10段	甕	第6段11層	⑯7.3	底部完存	胴部は外面タテハテ。底部外面ナテ。底部内面指部。胎土は3mm以下の石瓦、長石を中々多く含む。1mm以下の粒状や細目もわずかに含む。焼成良好。色調は外表面にも明褐色。	
16	第10段	甕	第7段5層	⑰(7.2)	底部1/2	胴部は不明。胎土は1～3mm程度の石瓦、長石を多く含むや中々。焼成良好。色調は外面灰白色、外面底部に赤褐色、内面灰至褐色。	
17	第10段	甕	第7段5層	⑱(7.2)	底部1/3	胴部は不明。胎土は1～2mm程度の石瓦、長石を非常に多く含むや中細。焼成良好。色調は外面淡灰褐色～淡赤褐色、内面明褐色。	
18	第10段	甕	第6段11層	⑲(7.3)	底部と胴部下 半を一部残存	胴部は不明。胎土は3mm以下の石瓦、石瓦、長石、雲母を多く含む。焼成良好。色調は外面赤褐色～明褐色、内面明褐色～暗褐色。	
19	第10段	甕	第6段11層	⑳(6.9)	底部1/3	胴部は外面下平タテハテ。その他調整不明。胎土は2mm以下の石瓦、長石を中々多く含む。1mm以下の粒目も少量含む。焼成良好。色調は外表面赤褐色～明褐色、内面黒色。	
20	第10段	甕	第6段1層	㉑(8.6)	底部1/2	胴部は外面タテハテ。その他調整不明。胎土は3mm以下の石瓦、長石、灰色砂粒を多く含む。焼成やや不良。色調は内外面ともに暗赤褐色～赤褐色。	
21	第10段	甕	第7段5層	㉒(6.9)	底部1/2	胴部は外面タテハテ。外面底部ナテ。内面不明。胎土は4mm以下の石瓦、長石を多く含む。焼成良好。色調は外面灰白色～黒褐色、内面淡黄褐色。	

番号	種別	種類	出土位置	法量 (cm)①(埋土露出②底径③胴部最大径④器口部径)	残存状態	調整及び特徴	備考
22	第10回	甕	第5回3・4層	①10.3	底部完存	胴部は不明。胎土は4mm以下の石瓦、長石を非常に多く含む。焼成やや不良。色調は外面赤褐色～黄褐色。内面赤褐色。	
23	第10回	甕	第7回5層	①(6.6)	底部1/2	胴部は外面タテハケ後ナデ。底部外面ナデ。内面工型によるナデ。内面底部ヨコハケ。1～3mm程度の石瓦、長石を多く含む。焼成良好。色調は外面に黄褐色～赤褐色。内面灰白色～赤褐色。	
24	第10回	甕	第7回5層	①(7.6)	底部1/2	胴部は不明。胎土は1mm以下の長石をわずかに含む。焼成良好。色調は外面明褐色。内面灰白色～灰褐色。	丹摩り
25	第10回	甕	包舎棚	①8.4	底部完存	胴部は不明。胎土は3mm以下の石瓦、長石をやや多く含む。1mm以下の雲母片もわずかに含む。焼成良好。色調は内外面ともに黄褐色。	
26	第10回	甕	第5回5層	①(8.1)	底部1/2	胴部は外面タテハケ。ヨコナデ。外面底部ナデ。内面不明。胎土は1～5mm程度の石瓦、長石、雲母。赤色結核を非常に多く含む。焼成良好。色調は内外面ともに灰白色～赤褐色。	
27	第10回	甕	包舎棚	①(9.8)	底部1/3	胴部は不明。胎土は砂粒をほとんど含まず粘質。焼成良好。色調は内外面ともに灰白色。	
28	第10回	甕	第7回5層	①7.2	底部完存	胴部は外面板状工具によるタテ方向のナデ。内面底部ハケ後ナデ。胎土は3mm以下の石瓦、長石をわずかに含む。焼成良好。色調は外面明褐色。内面に黄褐色。	
29	第10回	甕	第7回5層	①4.8	底部完存	胴部は外面タテハケの後ナデ。内面タテハケ。胎土は3mm以下の石瓦、長石を非常に多く含む。焼成良好。色調は外面明褐色～赤褐色。内面赤褐色。	
30	第10回	甕?	第7回5層	①3.7	底部完存	胴部は外面タテハケ。外面底部ナデ。内面不明。胎土は5mm以下の石瓦、長石、雲母を多く含む。焼成やや良好。色調は外面灰白色～赤褐色。内面黄褐色～赤褐色。	
31	第10回	甕	第5回5層	①(9.5)	底部1/3	胴部は不明。胎土は4mm以下の石瓦、長石を多く含む。焼成良好。色調は外面赤褐色。内面赤褐色～灰白色。	
32	第10回	甕	第5回5層	①6.8	底部～胴部下 半を約1/2	胴部は外面タテハケ。内面不明。胎土は5mm以下の石瓦、長石、雲母を非常に多く含む。焼成良好。色調は外面灰白色～淡褐色。内面黄褐色。	
33	第10回	甕	第7回5層	①(6.9)	底部1/2	胴部は外面タテハケ。外面底部ナデ。内面ハケ。内面底部圧痕あり。胎土は3mm以下の石瓦、長石を多く含む。色調は外面明褐色～淡赤褐色。内面黄褐色。	
34	第10回	甕	第7回5層	①(7.0)	底部1/2	胴部は外面タテハケ。外面底部ナデ。一部板状圧痕。内面ヨコナデ。胎土は1.5mm以下の石瓦、長石、雲母をわずかに含む。焼成良好。色調は外面に黄褐色～淡褐色。内面灰白色。	
35	第10回	甕	第7回5層	①(6.6)	底部1/3	胴部は外面ヨコナデ。その他不明。胎土は1～5mm程度の石瓦、長石を非常に多く含む。焼成良好。色調は内外面ともに赤褐色で部分的に黄褐色。	
36	第10回	甕?	包舎棚	①4.0	底部完存	胴部は内面ハケ。その他不明。胎土は3mm以下の石瓦、長石、雲母。灰白色やや多く含む。焼成やや不良。色調は外面赤褐色～淡灰褐色。内面黄褐色～灰褐色。	
37	第10回	甕	第6回5層	①2.6	底部完存	胴部は外面ヘラケズリ。外面底部ヘラケズリ後削りナデ。削り痕あり。胎土は2mm以下の石瓦、長石、雲母。角閃石を少量含む。焼成良好。色調は外面明褐色～褐色。内面赤褐色。	
38	第10回	甕	第6回5層		底部完存	胴部は外面不定方向のナデ後削りナデ。外面不明。胎土は6mm以下の石瓦、長石、雲母。褐色結核を多く含む。焼成良好。色調は外面明褐色～赤褐色。内面明赤褐色。	
39	第10回	鉢	第6回2～4層	①(19.2)②11.75③6.8	全体の1/2	胴部は不明。胎土は1mm程度の石瓦、長石を多く含む。4mm程度の石瓦もわずかに含む。黄褐色雲母粒を少量含む。焼成良好。色調は外面赤褐色～暗赤褐色。内面赤褐色～赤褐色。	
1	第11回	高杯	第5回5層	①(19.4)	口縁部1/4	胴部は外面不定方向のナデ後削りナデ。外面不明。胎土は6mm以下の石瓦、長石、雲母。褐色結核を多く含む。焼成良好。色調は内外面ともに黄褐色。	
2	第11回	高杯	第6回2～4層	①(12.0)	胴部2/3と 杯部の一部	胴部は不明。胎土は2mm以下の石瓦、長石をやや多く含む。黄褐色雲母粒もわずかに含む。焼成良好。色調は外面赤褐色～赤褐色。内面明褐色。	
3	第11回	高杯	第7回5層	①(17.0)	胴部1/4と 杯部の一部	胴部は不明。胎土は3mm以下の石瓦、長石をやや多く含む。焼成やや不良。色調は外面灰白色～淡褐色。内面明灰白色。杯部内面淡褐色。	丹摩り
4	第11回	高杯	第5回5層	①8.35	胴部完存	胴部は不明。胎土は5mm以下の石瓦、長石と黄褐色雲母を多く含む。やや粗。焼成良好。色調は内外面ともに赤褐色。	
5	第11回	鉢	第5回7層	①4.4	底部完存	胴部は内面ナデか。外面不明。胎土は1～3mm程度の石瓦、長石を多く含むやや粗。焼成良好。色調は内外面ともに黄褐色。	
6	第11回	甕	第5回7層	①3.8	底部完存	胴部は外面板状工具による底部ナデ?内面ナデ。内面底部圧痕あり。胎土は1mm以下の石瓦、長石、雲母をわずかに含む。焼成良好。色調は外面明褐色。内面暗灰褐色。	
7	第11回	鉢	第5回3・4層		1口縁～胴部片	胴部は不明。胎土は1～5mm程度の石瓦、長石、雲母を非常に多く含む。焼成不良。色調は内外面ともに淡褐色。	
8	第11回	踏台	第7回5層		脚縁部欠損	胴部は上面削りナデ後ハケ?外面胴部はタテハケ。内面ヨコナデ。胎土は5mm以下の石瓦、長石、褐色結核、雲母を多く含む。焼成やや不良。色調は内外面ともに褐色～明褐色。	

番号	開削 回数	器種	出土位置	法量 (cm)①(1層土露出②底径 ③胴部最大径④器底径)	残存状態	調整及び特徴	備考
9	第11回	器台	第7回5層		胴部~胴部1/2	調物は外周ナデ。その他不明。胎土は2mm以下の石炭。長石を少量含む。黄緑な雲母屑も含む。焼成良好。色調は内外面ともに平らで均一な褐色。	
10	第11回	器台	第6回5層		胴部~胴部上半	調物は内周ナデ。その他不明。胎土は4mm以下の石炭。長石をやや多く含む。焼成やや平直。色調は外周面黄褐色~赤褐色。内周面淡褐色。	
11	第11回	器台	第5回7層	③9.5	胴部1/2	調物は外周凹面あり。その他不明。胎土は1~3mm程度の石炭。長石を非常に多く含むやや硬。色調は外周面黄褐色~赤褐色。内周面灰褐色~赤褐色。	
12	第11回	器台	第6回1層	③10.6	胴部1/2	調物は内周ナデ方向のナデ。一部縦方向のナデ。外面不明。胎土は2mm以下の石炭。長石をやや多く含む。焼成やや平直。色調は内外面ともに褐色。一部淡褐色。	
13	第11回	器台?	第7回5層	①6.8②10.9③(10.9)	全体の1/3	調物は一部ナデ。その他不明。胎土は4mm以下の石炭。長石。雲母を非常に多く含む。焼成平直。色調は内外面ともに褐色。	
14	第11回	蓋	第5回11層	①17.1②5.4③天井部径4.1	口縁縁部と胴部の一部欠損	調物は外周タテハケ。外面天井部ナデ。内面天井部ナデ。胎土は5mm以下の石炭。長石。雲母。内周面を含む。焼成良好。色調は内外面ともに均一な淡黄褐色。	
15	第11回	蓋	第6回5層	④(14.65)	胴部1/4	調物は外周ナデ?内周ココナ。胎土は2mm以下の石炭。長石をやや多く含む。焼成良好。色調は外周面白色~淡黄褐色~褐色。内面は淡褐色~灰褐色。	
16	第11回	蓋	第5回3・4層	④(15.3)	口縁縁部と口縁~胴部上半を1/4欠損	調物は内周部凹ナデ。その他焼成不明。胎土は5mm以下の石炭。長石。雲母を非常に多く含む。焼成平直。色調は内外面ともに灰褐色。	
17	第11回	蓋	第7回5層	③(7.8)	底部1/3	調物は内周タテハケ後凹面。外面不明。胎土は1~3mm以下の石炭。長石を非常に多く含む。焼成良好。色調は外周面白色。内面黒褐色。	
1	第12回	蓋	第7回4層		口縁部小片	調物は胴部タテナデ。内周部ココナ平後凹面。口縁部ココナ。内周部凹面以上によるココナ。内周部凹面ナデナデ。胎土は1mm以下の石炭と雲母を含まずやや硬。焼成良好。色調は内外面ともに褐色。	
2	第12回	蓋	包含層		口縁部小片	調物は外周タテハケ。口縁部部はココナ。口縁部部はココナ後ココナ。内周部部はナデ。胎土は1~3mm程度の石炭。長石。雲母。赤色粉末を含む。焼成良好。色調は内外面ともに褐色。	
3	第12回	蓋	第5回3・4層	④(18.4)	底部~胴部にかけて2/3	調物は外周部ココナ。内周ココナ。一部ナデ方向のナデ。内周部ナデ。胎土は0.5~8mmの石炭。長石を非常に多く含む。焼成良好。色調は外周赤褐色。内周淡褐色~赤褐色。	
4	第12回	蓋	表層		把手部	調物は外周ナデ。一部凹面。内周へウケナデ。胎土は2mm以下の石炭。長石を少量含む。焼成やや良好。色調は内外面ともに平らで均一な褐色。	
5	第12回	地	包含層	③高台径7.7	高台部完形	調物は高台部ココナ。内周ミナギ。胎土は2mm以下の石炭。長石をわずかに含む。焼成良好。色調は外周面黄褐色。内周灰褐色。	黄色土器
1	第13回	蓋	第5回5層	①12.2②4.7	天井部完形 口縁部1/4	調物は外周凹面へウケナデ。口縁部ナデ。天井部凹面方向のミナギあり。胎土は3mm以下の白色粉を少量含む。焼成良好。色調は外周面白色。一部褐色。内周褐色。	
2	第13回	杯身	第5回5層		口縁部小片	調物は内外面ともに凹面ナデ。胎土は微細な砂粒をわずかに含む。焼成良好で硬質。色調は内外面ともに灰白色。	
3	第13回	蓋	第6回5層		つまみ1/2~ 天井部片	調物はつまみ凹面ナデ。内面不定方向のナデ。胎土は1mm程度の白色粉をわずかに含む。焼成良好で硬質。色調は内外面ともに灰白色。	
4	第13回	蓋	包含層	①(13.0)②2.7つまみ部径2.2	全体の1/4	調物は外周凹面へウケナデ。口縁部凹面ナデ。内周ココナ後凹面ナデ。胎土は微細な砂粒をわずかに含む。焼成良好。色調は外周面白色。内周白色。	
5	第13回	蓋	第7回5層	①(13.8)	口縁部1/10	調物は外周から口縁部凹面ナデ。内周は凹面ナデ後不定方向のナデ。胎土は1mm以下の白色粉粒をわずかに含む。焼成良好。色調は内外面ともに褐色。	
6	第13回	蓋	第5回5層	①(13.8)	口縁部1/2	調物は外周凹面へウケナデ。内面天井部不定方向のナデ。その他焼成ナデ。胎土は1mm以下の白色粉粒をわずかに含む。焼成良好。色調は口縁部凹面褐色。その他褐色。	
7	第13回	蓋	第5回5層	①(14.3)	全体の2/5	調物は外周凹面へウケナデ。ココナ。内周部ナデ後不定方向のナデ。口縁部部部部ナデ。胎土は1mm以下の白色粉粒をわずかに含む。焼成良好で硬質。色調は内外面ともに褐色。一部灰褐色。	
8	第13回	蓋	第5回5層	①(15.4)	口縁部1/3	調物は外周凹面へウケナデ。内周部ココナ。内周部ココナ後不定方向のナデ。口縁部部部ナデ。胎土は1.5mm以下の白色粉粒をわずかに含む。焼成良好で硬質。色調は口縁部凹面褐色。その他褐色。	
9	第13回	蓋	第7回4層	①(15.8)	口縁部1/4	調物は外周凹面へウケナデ。口縁部部部ナデ。内周部ナデ後不定方向のナデ。胎土は1.5mm以下の白色粉を含む。焼成良好で硬質。色調は外周面白色。内周白色。	
10	第13回	蓋	第7回4層	①(16.2)②1.5つまみ部径2.1	全体の1/5	調物は外周凹面へウケナデ。つまみ凹面ナデ。口縁部部部ナデ。内周部ナデ後ナデ。胎土は砂粒をほとんど含まず焼良。焼成良好。色調は内外面ともに褐色。	
11	第13回	蓋	包含層	①(10.0)②2.6つまみ部径2.3	口縁~天井部1/2	調物は外周凹面へウケナデ。つまみ凹面ナデ。口縁部ココナ。内周部ナデ後ナデ。胎土は1.5mm以下の白色粉粒をわずかに含む。焼成良好。色調は内外面ともに灰白色。	
12	第13回	杯	第7回4層	①(13.4)④4.1	口縁~底部を一部欠損	調物は外周部凹面へウケナデ。内周部ココナ後ナデ。その他焼成ナデ。胎土は砂粒をほとんど含まず焼良。焼成良好。色調は内外面ともに灰白色。	

番号	開削回数	器種	出土位置	法量 (cm)①(1)埋土器②底径③胴部最大径④器高	残存状態	調整及び特徴	備考	
13	13	Ⅲ	第7Ⅳ4層	①(13.2)②(4.35)③7.6	全体の1/6	胴部は外面底部へ切り後コナナ。内面底部はナテ後ナテ。その他はナテ。胎土は1mm以下の白色粒をわずかに含む。焼成良好。色調は内外赤とも反応色。		
14	13	Ⅲ	第7Ⅳ4層	①(13.8)②(4.25)③(8.8)	全体の1/4	胴部は外面底部はナテ後ナテ。内面底部はナテ後ナテ。高台部はナテ。内面底部は不定方向のナテ。内面底部はナテ。一部にコナナ。焼成良好。色調は内外赤とも反応色。		
15	13	Ⅲ	第7Ⅳ4層	①(14.0)②(4.05)③(9.4)	口縁部・体部1/4と底部1/2	胴部は外面底部へ切り後コナナ。内面底部はナテ。高台部はナテ。その他はナテ。胎土は2mm以下の白色粒をわずかに含む。焼成良好。色調は内外赤とも反応色。		
16	13	Ⅲ	第7Ⅳ5層	①(15.0)②(4.0)③(9.0)	底部高台部1/4と体部1/3の一部	胴部は外面底部へ切り後コナナ。内面底部はナテ後不定方向のナテ。その他はナテ。胎土は1mm以下の白色粒をわずかに含む。焼成良好。色調は内外赤とも反応色。		
17	13	Ⅲ	第5Ⅳ5層	③高台径7.9	底部2/3	胴部は外面底部へ切り後コナナ。胎土は1mm以下の白色粒をわずかに含む。焼成良好。色調は内外赤とも反応色。		
18	13	Ⅲ	包含層	③高台径(10.0)	底部1/6	胴部は外面底部へ切り後ナテ。外面底部はナテ後コナナ。高台部はナテ。内面底部はナテ。胎土は砂粒をほとんど含まず精白。焼成良好。色調は内外赤とも反応色。		
19	13	Ⅲ	第6Ⅳ5層		底部～高台部小片	胴部は外面底部へ切り後コナナ。内面底部はナテ後不定方向のナテ。胎土は1mm以下の白色粒をわずかに含む。3～5mm程度の砂粒を多く含む。焼成やや不十分で硬。色調は内外赤とも反応色。		
20	13	Ⅲ	包含層	①(12.0)②(3.1)③(8.2)	全体の2/5	胴部は外面底部へ切り後コナナ。内面底部はナテ後不定方向のナテ。その他はナテ。胎土は2mm以下の白色粒をわずかに含む。2mm以下の白色粒を少量含む。焼成良好。色調は内外赤とも反応色。		
21	13	Ⅲ	表探	①(15.0)②(4.0)③(10.8)	底部は不定方向と口縁部小片	胴部は外面底部へ切り後ややコナナ。内面底部はナテ後不定方向のナテ。その他はナテ。胎土は2mm以下の白色粒を少量含む。焼成良好で硬。色調は内外赤とも反応色。		
22	13	Ⅲ	第5Ⅳ5層	①(11.4)②(1.4)③(9.2)	全体の2/3	胴部は外面底部へ切り後コナナ。内面底部はナテ後不定方向のナテ。その他はナテ。胎土は1mm以下の白色粒をわずかに含む。焼成良好で硬。色調は内外赤とも反応色。		
23	13	Ⅲ	第7Ⅳ4層	①(14.8)②(2.0)③(11.6)	全体の1/2	胴部は外面底部へ切り後コナナ。その他はナテ。胎土は1mm以下の白色粒を含む。焼成良好。色調は内外赤とも反応色。	灰かぶり	
24	13	Ⅲ	第5Ⅳ5層	①(14.5)②(2.15)③(11.4)	口縁部～底部1/5	胴部は外面底部へ切り後ナテ。ヘラケズリ後コナナ。その他はナテ。胎土は1mm以下の白色粒をわずかに含む。焼成良好。色調は内外赤とも反応色。		
25	13	Ⅲ	包含層	③(11.2)	底部3/4	胴部は外面底部へ切り後コナナ。内面底部はナテ後不定方向のナテ。その他はナテ。胎土は2mm以下の白色粒を少量含む。焼成良好で硬。色調は外面底部は反応色。体部は反応色。内面は反応色。		
26	13	Ⅲ	包含層	①(17.2)②(2.2)③(14.4)	底部1/3と口縁部の一部	胴部は外面底部へ切り後コナナ。その他はナテ。胎土は0.5mm以下の白色粒をわずかに含む。焼成良好で硬。色調は外面は反応色一反応色。内面は反応色。		
27	13	Ⅲ	第5Ⅳ5層	①(19.4)②(2.0)③(16.3)	口縁部～底部1/4	胴部は内外赤とも反応ナテ。胎土は1mm以下の白色粒をわずかに含む。焼成良好。色調は内外赤とも反応色。		
28	13	Ⅲ	第7Ⅳ4層	①(19.0)②(2.75)③(16.8)	口縁部～胴部1/3	胴部は外面底部へ切り後ナテか？内面底部はナテ後不定方向のナテ。その他はナテ。胎土は1mm以下の白色粒をわずかに含む。焼成良好。色調は内外赤とも反応色。		
29	13	Ⅲ	第5Ⅳ5層	①(13.8)②(1.9)③(10.8)	口縁部1/4欠損	胴部は外面底部へ切り後ややコナナ。内面底部はナテ後ナテ。その他はナテ。胎土は2mm以下の白色粒をわずかに含む。焼成良好で硬。色調は内外赤とも反応色。		
30	13	Ⅲ	包含層	③(12.0)	胴部下半1/5	胴部は内外赤とも反応ナテ。胎土は砂粒をほとんど含まず精白。焼成良好。色調は内外赤とも反応色。		
31	13	Ⅲ	双耳瓶	第7Ⅳ4層	体部、把手小片	胴部は外面ナテ。内面はナテ。胎土は1mm以下の白色粒をわずかに含む。焼成良好で硬。色調は外面は反応色一反応色。内面は反応色。		
1	14	Ⅲ	表	第5Ⅳ5層	胴部～胴部の小片	胴部は外面平タテナ。内面底部コナナ。胴部は反応色。胎土は1mm未満の白色粒を少量含む。焼成やや良好。色調は内外赤とも反応色一反応色。	灰かぶり	
2	14	Ⅲ	壺	第7Ⅳ4層	口縁部1/8、胴部・体部の一部	胴部は外面底部はナテ。内面底部はナテ。胎土は不定方向のナテ。その他はナテ。胎土は1.5mm以下の白色粒を少量含む。焼成良好で硬。色調は外面は反応色一反応色。内面は反応色。	灰かぶり	
1	15	Ⅲ	壺	包含層	口縁部小片	胴部は内外赤とも反応ナテ。色調は胎土は反応色。胎土は反応色。	魚鱗	
2	15	Ⅲ	壺	第7Ⅳ5層	口縁部小片	胴部は内外赤とも反応ナテ。焼成良好。色調は胎土は反応色。胎土は反応色。	魚鱗	
3	15	Ⅲ	筒字甕？	表探	③(6.4)	高台部1/4	胴部は反応ナテ。胎土は精白。焼成良好。色調は胎土は反応色。胎土は反応色。	魚鱗





☒ 版

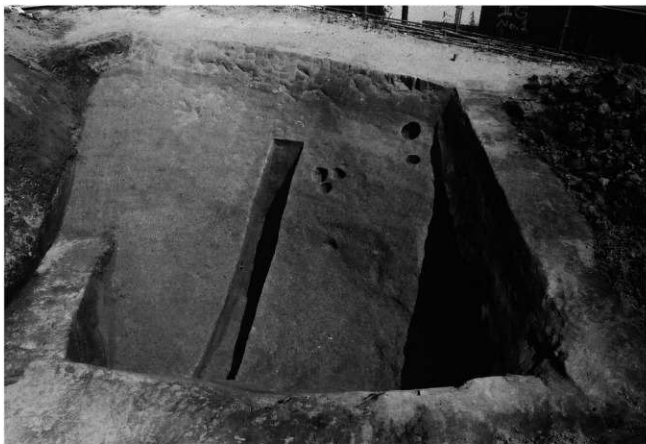




(1) 調査区西半全景（東から）



(2) 調査区西半西壁土層断面（北東から）



(1) 調査区東半全景 (南から)



(2) 調査区東半東壁土層断面 (西から)



(1) 第2トレンチ東壁土層断面 (南西から)



(2) 第2トレンチ南端西壁 (東から)



图 8-1



图 8-7



图 8-8



图 8-9



图 9-5



图 9-7



图 10-9



图 10-18



图 10-23



图 10-29

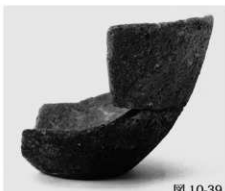


图 10-39

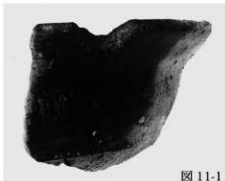


图 11-1



图 11-4



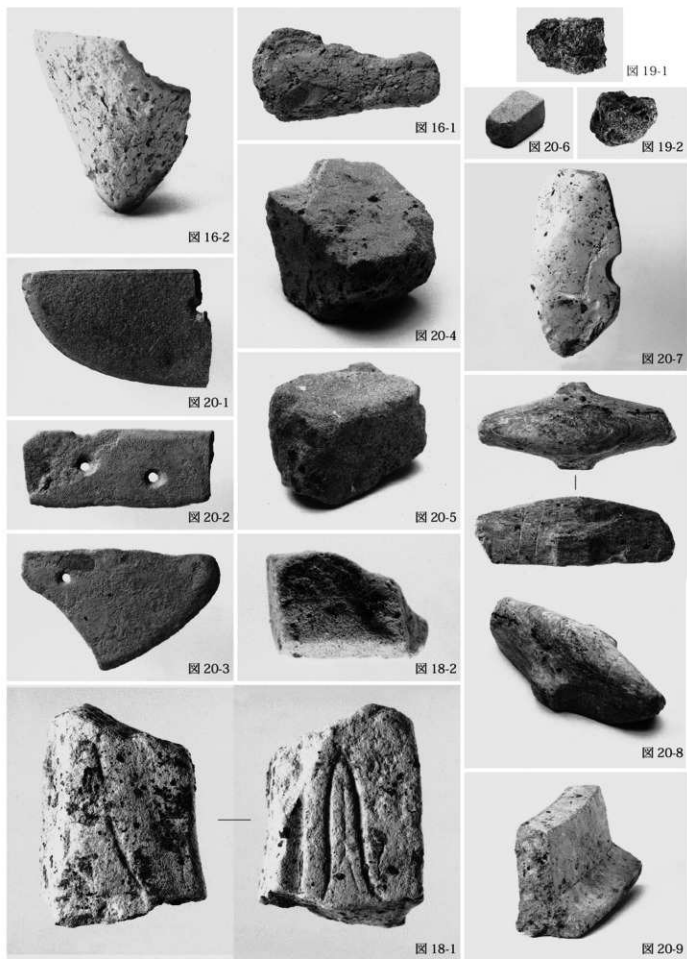
图 11-5



图 11-6



包含層出土弥生土器、須惠器、瓦



包含層出土土製品、石器、鉄器、青銅器鑄造関連遺物



## 報告書抄録

ふりがな	どうぞの いせき							
書名	堂園遺跡 1次調査							
副書名	福岡県春日市小倉所在遺跡の調査							
巻次								
シリーズ名	春日市文化財調査報告書							
シリーズ番号	第67集							
編著者名	森井千賀子							
編集機関	春日市教育委員会							
所在地	〒816-0804 福岡県春日市原町3丁目1番地5 TEL 092-584-1111							
発行年月日	2012年3月31日							
所収遺跡名	ふりがな 所在地	コード		北緯 ° ' "	東経 ° ' "	調査期間	調査面積	調査原因
		市町村番号	遺跡番号					
堂園遺跡	ふくおかけん 春日し 小倉 福岡県春日市小倉 2丁目73、90、 91-1、92-2	40218		33° 31' 52"	130° 27' 13"	2008.8.6 } 2008.9.5	84.9 m <sup>2</sup>	開発に伴う緊急発掘調査
所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構		主な遺物		特記事項	
堂園遺跡	集落	弥生～ 中世	包含層		弥生土器、土師器、 須恵器、石器 青銅器鋳型			
要約	<p>当遺跡は春日丘陵の中央部で、丘陵を東西に隔てる谷部の北側に面した小丘陵の斜面に位置し、標高 34m 前後を測る。当遺跡は弥生時代の遺跡が多く所在する須玖遺跡群の中にあり、周辺の遺跡には、広形銅戈の鋳型が出土した大南遺跡や、弥生時代の鉄器工房跡と考えられる仁王手 A 遺跡がある。</p> <p>当遺跡は包含層の調査で、包含層から出土した土器の採集が主であった。出土遺物の状況から、北側斜面上には弥生時代中～後期の集落があったと思われる。また、溶着した須恵器の破片も多く出土していることから、極めて近い地点に須恵器の窯跡があったと想定される。</p>							



# 堂園遺跡

春日市文化財調査報告書

第67集

2012年3月31日

発行 春日市教育委員会  
福岡県春日市原町3丁目1番地5

印刷 株式会社 四ヶ所  
福岡県朝倉市馬田336